

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
4 4	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
<b>題名 (原題/訳)</b> Alcohol consumption and distinct molecular pathways to colorectal cancer. アルコール摂取から大腸がんへと至る分子学的経路	
<b>執筆者</b> Bongaerts BW, de Goeij AF, de Vogel S, van den Brandt PA, Goldbohm RA, Weijnenberg MP.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Br J Nutr. 2007 Mar;97(3):430-4.	
<b>キーワード</b> アルコール、大腸がん、遺伝的性質、コホート研究、オランダ	
<b>要旨</b> <b>目的：</b> 大量のアルコール摂取は大腸がんとの関連がある。本研究の目的は病因学的な特徴、特に染色体不安定性 (chromosomal instability; CIN) および microsatellite instability (MIN) 経路に関してアルコール摂取と大腸がんのリスクとの関連を研究することである。腫瘍を CIN <sup>+</sup> (断裂 APC 変異、活性化 <i>K-ras</i> 変異、p-53 過剰発現)、MIN <sup>+</sup> (hMLH1 発現のないもの) および CIN <sup>-</sup> /MIN <sup>-</sup> (前述の欠損のいずれも無いもの) に分類した。	
<b>方法：</b> 食事とがんに関する“オランダ・コホート研究”において、男女計 12,0852 人、年齢 55-69 歳の参加者が、基礎調査施行時 (1986 年) にがんの危険因子に関する質問票を完答した。7.3 年の追跡調査後の完備データを持つ 573 の大腸がん症例に対して症例・コホート分析を行った (はじめの 2.3 年は除外)。諸因子を調整した罹患率比 (incidence rate ratios; RR) と 95% 信頼区間 (CI) とを算出した。	
<b>結果：</b> 統計学上の有意性は得られなかったが、アルコール非摂取者に比較し 30g/日以上 of アルコール摂取は遺伝分子学的な変異型の有無にかかわらず大腸がんとの正の相関を認めた；CIN <sup>+</sup> 型で RR1.35 (95%CI 0.9-2.0)、MIN <sup>+</sup> で RR1.59 (95%CI 0.4-5.8)、CIN <sup>-</sup> /MIN <sup>-</sup> で RR1.15 (95%CI 0.5-2.7)。どの変異型 (CIN <sup>+</sup> 、MIN <sup>+</sup> 、CIN <sup>-</sup> /MIN <sup>-</sup> ) においても特定の種類のアルコール (ビール、ワイン、リカーの 3 分類) が大腸がんのリスクを高めるとはいえなかった。	
<b>結論：</b> 毎日 30g 以上のアルコール摂取は大腸がんの危険性を高めることがわれわれの研究から示唆された。この関係は今回検証した大腸がんの変異型の有無に関わらず観察された。	